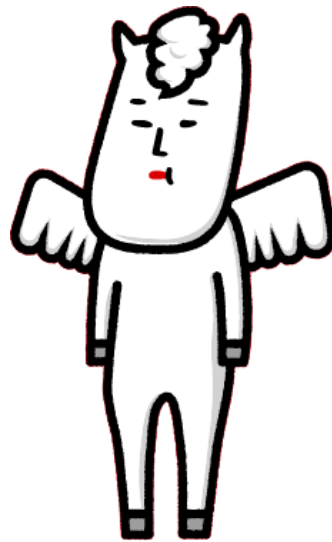


概要版

白馬村水道事業経営戦略



令和7年 月

白馬村

第 1 章 白馬村水道事業経営戦略について

「経営戦略」の策定背景と目的

経営戦略策定背景と目的

人口減少による水需要の減少と節水意識の向上に伴う給水収益の減少に加え、水道施設の老朽化による更新需要の増大により、水道事業を取り巻く経営環境はより厳しさを増す状況にあります。

このような社会経済情勢及び本村水道事業の経営環境の変化に適応し、より安全で安心な水をいつでも安定的に供給し続けるために、『白馬村水道事業ビジョン（第 2 次）』（令和 4 年度）を策定しました。

また、将来にわたってサービスの提供を安定的に継続するために、総務省は『公営企業の経営に当たっての留意事項について』（平成 26 年 8 月 29 日）や『「経営戦略」の改定推進について』（令和 4 年 1 月 25 日）等で策定要請・改定推進を行いました。

このような背景を受け、当初の計画を見直し、経営基盤の強化を図っていくために、総務省が取りまとめた「経営戦略策定・改定ガイドライン（以下「ガイドライン」という。）」に基づき、「白馬村水道事業経営戦略（以下「本計画」という。）」を改定します。

白馬村の水道事業経営戦略策定状況

本村は、平成 29 年度に『白馬村水道事業経営戦略』（平成 30 年度～令和 9 年度）を策定しており、本計画は中間見直しを行うものです。

計画期間

本計画は、中長期的な観点から経営基盤の強化等に取り組み、給水サービスの維持に不可欠な施設の維持・更新に要する期間を設定するため、計画期間を 10 年間（令和 7～令和 16 年度）とします。

ただし、事業の進捗や社会経済情勢の変化等に応じて、「投資・財政計画」と実績が著しく乖離する場合には、随時見直していくものとします。



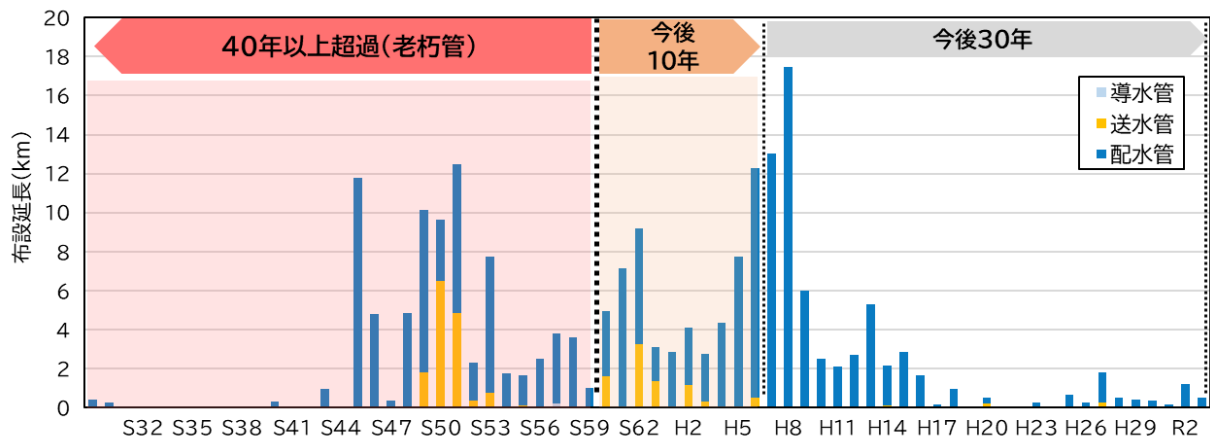
図 経営戦略策定の計画期間

第2章 水道事業の現状と課題

事業のあらまし

管路の整備実績

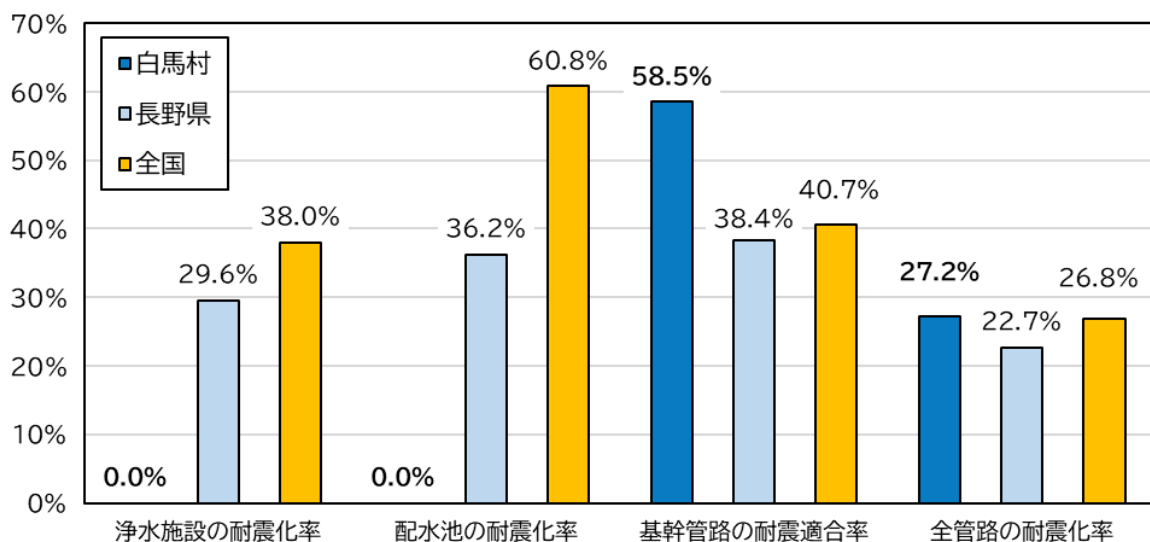
本村の水道事業は昭和39（1964）年の創設から2021年度に至るまで、総延長として約203kmにも上る管路を整備してきました。このうち、総延長の約40%に相当する約80kmが法定耐用年数である40年を超えて使用されています。



出典：管路マッピングシステム

図 過去の管路整備延長

水道施設の耐震化状況は、浄水場や配水池といった基幹施設の耐震性が0%（耐震診断未実施を含む）です。また、基幹管路の耐震適合率は全国及び長野県の平均を上回っているものの、全管路の耐震化率は3割以下に留まっている状況です。



出典：白马村水道事業ビジョン（第2次）(R4)

図 水道施設の耐震化状況

事業概要のまとめ

本村の水道事業の概要を表に示します。

本村の水道事業は、昭和 39 年に旧白馬町他 9 地区に給水することを目的とした許可を申請し、給水人口 6,000 人、1 日最大給水量 4,180 m³/日で事業が創設されました。その後、簡易水道事業の統合を繰り返しながら、安定的に水道水を供給してきました。

表 白馬村水道事業基本情報

水道事業の施設及び業務概況		
基本項目	給水形態	末端給水事業
	事業創設認可年月日	昭和 39 年 3 月 30 日
	供用開始年月日	昭和 39 年 12 月 1 日
施設	行政区域内人口(人)	8,739
	計画給水人口(人)	9,900
	現在給水人口(人)	8,572
	水源	表流水、伏流水、地下水
	浄水場設置数	3
	導水管延長(m)	200
	送水管延長(m)	22,990
	配水管延長(m)	180,190
業務	配水能力(m ³ /日)	21,150
	一日最大配水量(m ³ /日)	10,891
	年間総配水量(m ³)	2,757,670
	年間総有収水量(m ³)	1,276,960

出典：地方公営企業決算状況調査表（令和 5 年度末時点）

水道料金

水道料金表

本村の水道料金を表に示します。

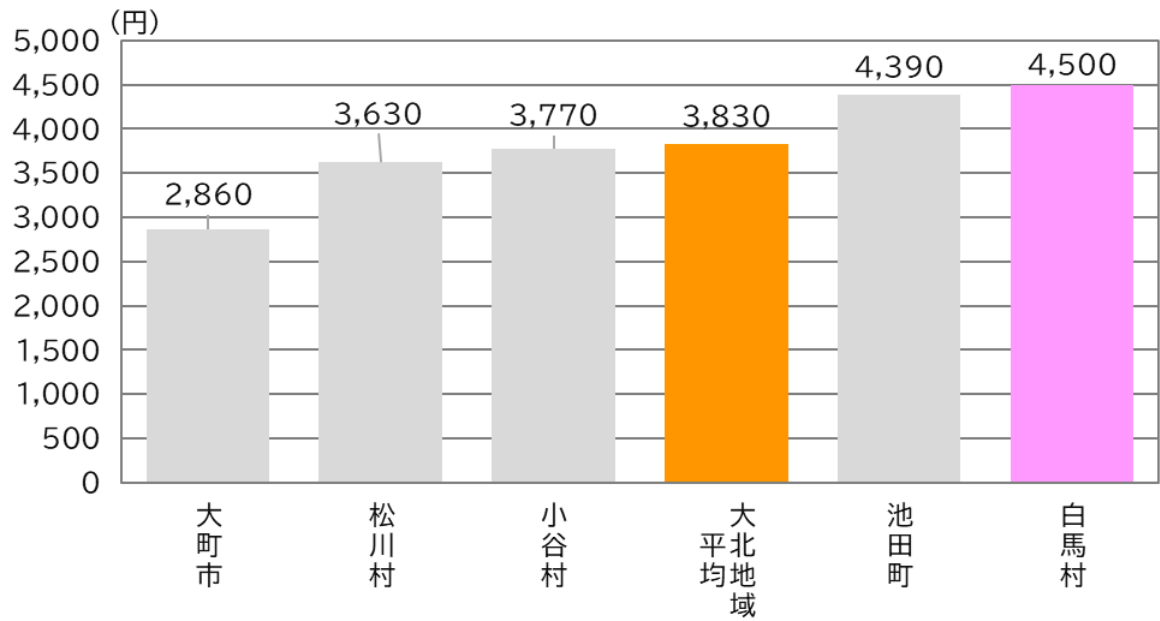
表 本村の水道料金表（令和 7 年 1 月現在）

メーター口径	基本料金	従量料金(水量区分ごとの1m³当たり単価)			
		～5m³	6～30m³	31～70m³	71m³～
13mm	1,670円	65円	140円	160円	170円
20mm	2,150円				
25mm	3,320円				
30mm	6,320円	140円			
40mm	10,400円				
50mm	19,300円				
75mm	42,900円				

（注 1）料金は、上記の表により算出した水道料金に消費税が加算されます。10 円未満の端数が生じた場合は切り捨てるものとします。

水道料金水準の比較

水道事業における水道料金の他団体比較を図に示します。



※小谷村は簡易水道事業の水道料金になります。

出典：各団体 HP

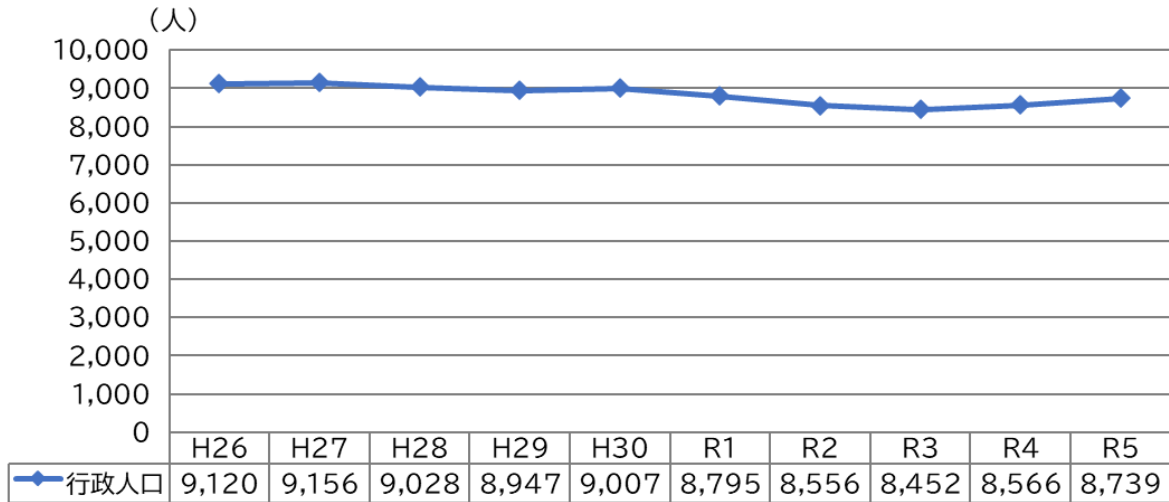
図 水道料金の比較

（メーター口径 13mm、1 カ月あたり使用水量 20m³ の水道料金（消費税込み））

第3章 事業を取り巻く経営環境

行政人口の推移（過去と将来予測）

本村の行政人口は、微細な増減を繰り返していますが、平成17年の9,500人をピークに減少傾向が続いています。



出典：地方公営企業決算状況調査表

図 行政人口の推移（過去実績10年）

本村の将来人口は、「白馬村第5次総合計画（後期計画）」で採用された社人研推計（2015）から、2015年の実績人口を置き換えて時点補正し、算定しています。令和7年の推計人口は8,140人、令和42年は5,038人となっており、令和7年に比べて38%の減少となる見通しです。

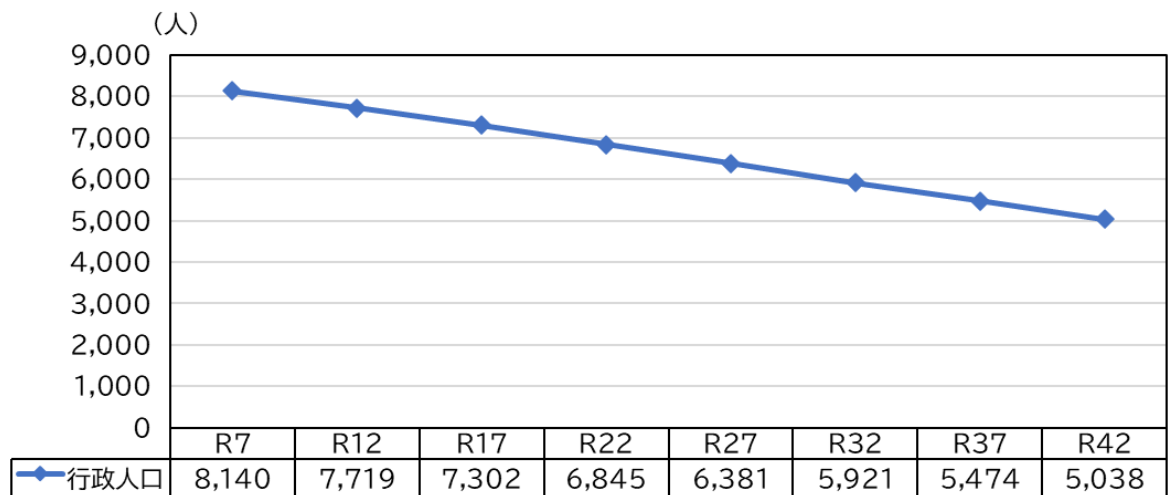
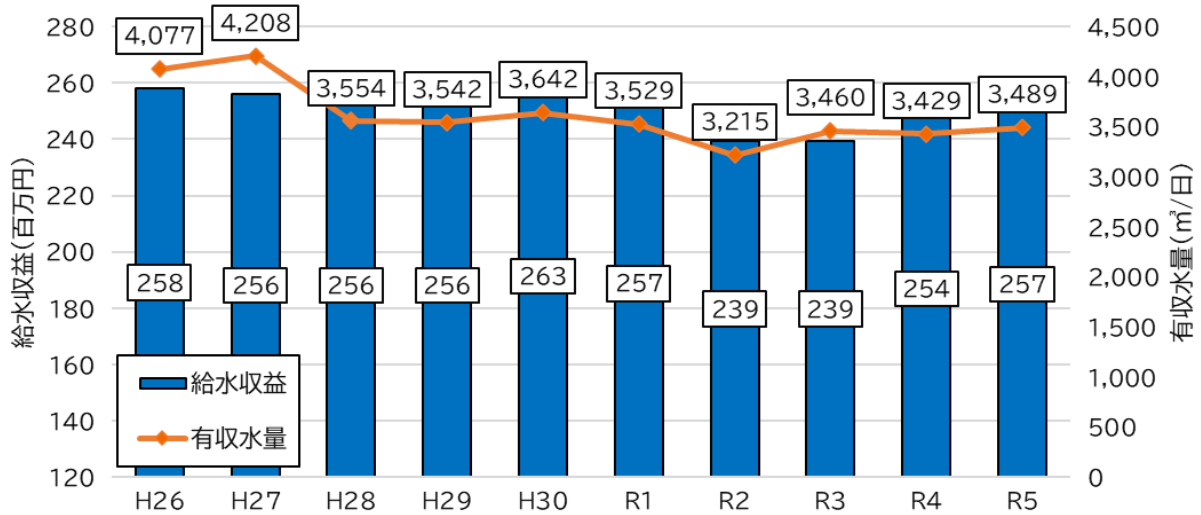


図 行政人口の推計（将来予測）

給水収益の推移（過去と将来予測）

白馬村水道事業の給水収益は、新型コロナウイルス感染症による使用水量の落ち込みが令和2年度から令和3年度にあったものの、それらの年を除けば2億6000万円前後で安定的に推移しています。

有収水量については、人口減少にあわせて年々減少しています。



出典：地方公営企業決算状況調査表

図 有収水量及び給水収益の推移（過去10年間）

将来の給水収益及び有収水量の予測を図に示します。

令和7年度に水道料金を改定したことで、給水収益が一定期間増加しますが、行政人口及び給水人口の減少に伴い、減少傾向が継続すると予測しています。

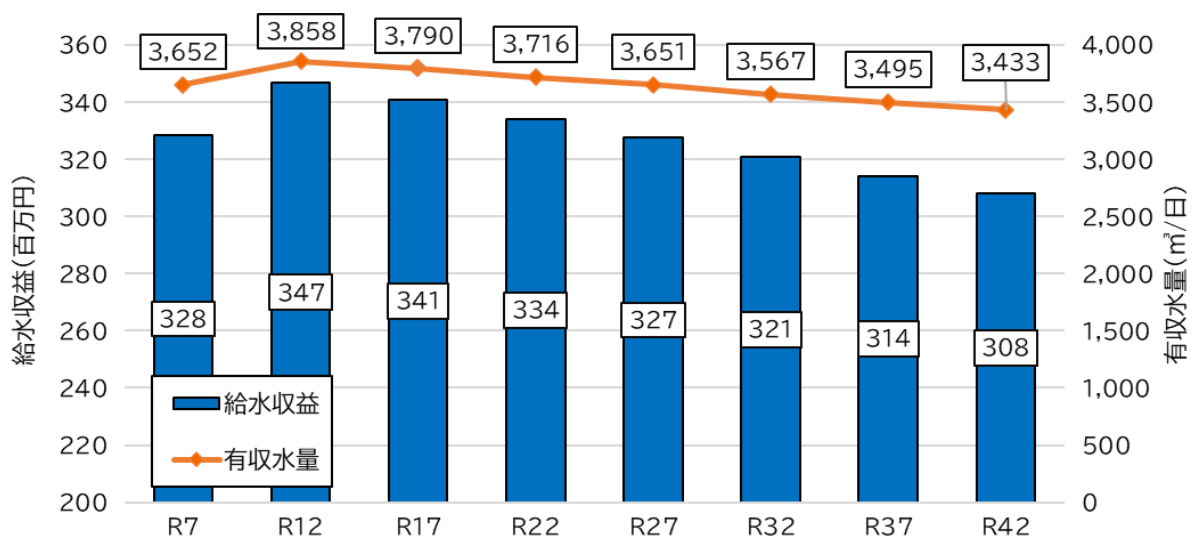


図 有収水量及び給水収益の推移（将来予測）

第4章 理念と経営基本方針

水道事業の理念

本経営戦略の理念として、上位計画である『白馬村水道事業ビジョン（第2次）』で設定した基本理念「自然の恵みをそのままに。おいしい白馬の水道水」を継承します。

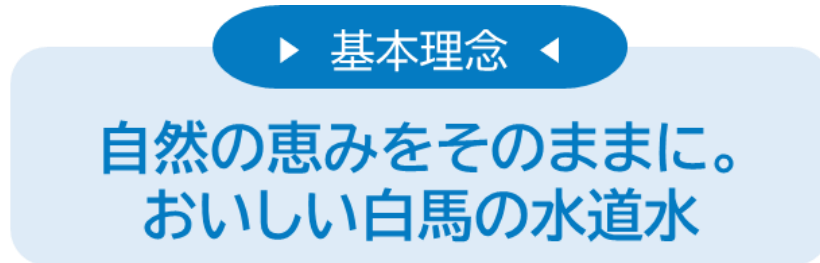
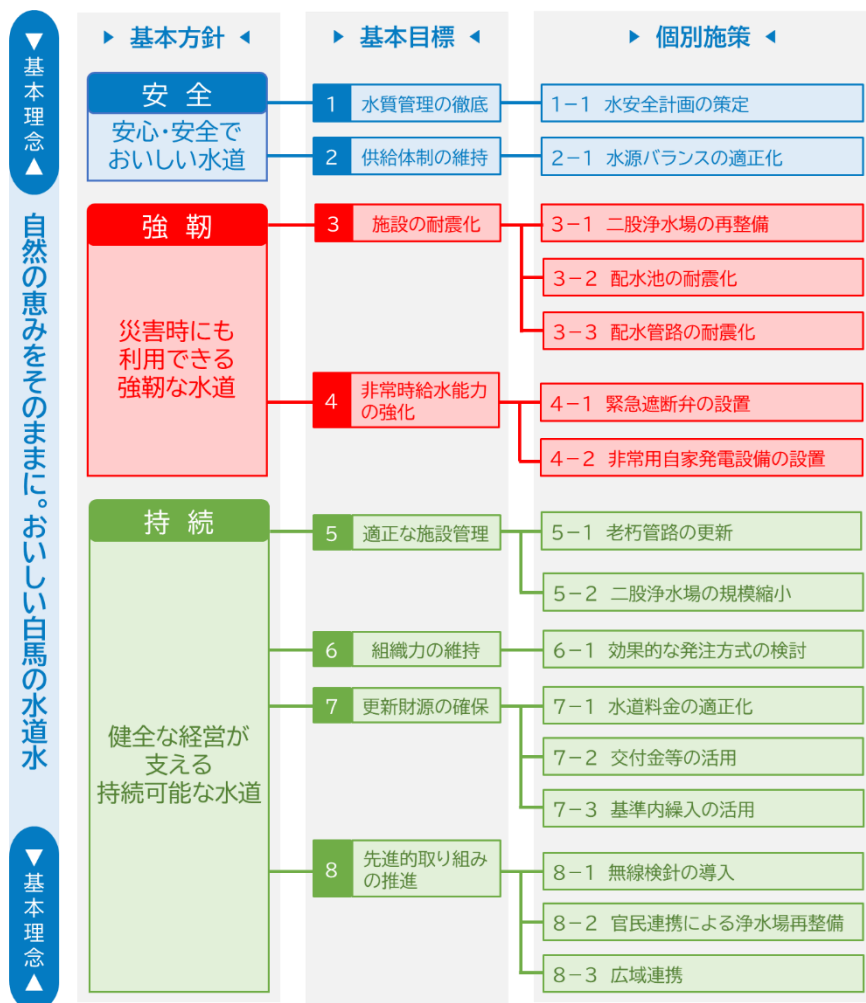


図 本村水道事業の基本理念

基本方針及び施策の体系

『白馬村水道事業ビジョン（第2次）』では、「安全」、「強靱」、「持続」の3つの観点を軸に、基本理念実現に向けた個別の施策も含めた体系を定めています。



出典：白馬村水道事業ビジョン（第2次）（R4）を最新内容に更新

図 水道事業ビジョンにおける基本方針と施策

第 5 章 目標設定

経営目標

第 4 章で掲げた基本方針に沿った施策の着実な実行に向け、事業の安定的運営と継続性を確保するため、経営目標を設定します。

表 経営目標一覧

目標No.	指 標	指標の解説	単位	望ましい方向性	目 標 値	【参考】 令和5年度実績	達成 年限
1	流動比率	100%以上なら短期債務を全額支払う現金等があることを示す。	%	高いほど良い 	100%以上	899.85%	令和16 年度
2	企業債残高対 給水収益比率	給水収益に対する企業債残高の割合により企業債残高の規模を表す。	%	低いほど良い 	短期目標:880%以下 (中期目標:540%以下) (長期目標:230%以下) ※	117.48%	令和16 年度
3	内部留保資金 残高	企業内部に留保された余剰資金で、翌年度以降の財源として使用できる現金等残高。	千円	高いほど良い 	維持管理費＋元利償還費 の半期分以上を確保	582,089千円 (維持管理費＋元利償 還費の半期分＝ 90,615千円)	令和16 年度

※ 短期＝10年、中期＝20年、長期＝30年とする。

第 6 章 投資と財源に関する取組み

まとめ

各取組みの本計画期間における投資・財政計画（第 7 章）への反映状況を表にまとめます。
検討段階のため投資・財政計画未反映の取組みについては、今後できるだけ早期に具体的な計画を策定していくことが求められます。

表 各種取組みのまとめ

分類	記載箇所	取 組 み 内 容	本計画期間における投資・ 財政計画への反映
投資に関する取組み	6-1-1.	二股浄水場の再整備	反映 (取組み予定期間:R10～15)
		二股浄水場の規模縮小	反映 (取組み予定期間:R10～15)
	6-1-2.	配水管路の耐震化	反映 (取組み予定期間:R7～16)
		老朽施設・管路の更新	反映 (取組み予定期間:R7～16)
財源に関する取組み	6-2.	(1)水道料金に関する考え方	反映 (取組み予定期間:R7～16)
		(2)国庫補助金の確保	反映 (取組み予定期間:R7～16)
		(3)一般会計繰入金のあり方について	未反映(今後の検討課題)
		(4)企業債(建設改良企業債)の活用	反映 (取組み予定期間:R7～16)
		(5)加入分担金の見込みについて	反映 (取組み予定期間:R7～16)
その他の取組み	6-3-1.	官民連携(『ウォーターPPP』)の検討	未反映(検討中)
		効果的な発注方式の検討	未反映(検討中)
		DX(デジタル・トランスフォーメーション)の検討	未反映(検討中)
		GX(グリーン・トランスフォーメーション)の検討	未反映(検討中)

第7章 投資・財政計画

経営目標達成見通し

投資・財政計画から抽出した指標（将来数値）をもとに、第5章で設定した経営目標の達成見通しを確認します。

表 経営目標で掲げた指標の将来10年間見通し

目標No.	指標	単位	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16
1	流動比率	%	695.51	594.69	776.85	534.27	407.57	328.41	216.15	146.49	126.46	158.74
2	企業債残高対給水収益比率	%	100.70	87.52	83.01	78.45	141.28	232.77	329.41	549.31	779.19	841.00
3	内部留保資金残高	千円	533,364	470,350	631,233	428,943	370,498	374,021	237,836	211,958	186,219	235,455
	維持管理費＋元利償還費の半期分	千円	103,858	108,482	101,761	93,219	101,832	103,302	116,203	116,729	128,249	153,839

表 経営目標の達成見通し

目標No.	指標	指標の解説	単位	望ましい方向性	目標値	達成年限	達成見通し
1	流動比率	100%以上なら短期債務を全額支払う現金等があることを示す。	%	高いほど良い 	100%以上	令和16年度	達成
2	企業債残高対給水収益比率	給水収益に対する企業債残高の割合により企業債残高の規模を表す。	%	低いほど良い 	短期目標:880%以下 (中期目標:540%以下) (長期目標:230%以下) ※	令和16年度	達成
3	内部留保資金残高	企業内部に留保された余剰資金で、翌年度以降の財源として使用できる現金等残高。	%	高いほど良い 	維持管理費＋元利償還費の半期分以上を確保	令和16年度	達成

※ 短期＝10年、中期＝20年、長期＝30年とする。

アセットマネジメント計画における更新事業の時期調整と規律ある企業債発行計画の策定により、全ての経営目標が達成されることを確認しました。

さらなる指標改善に向け、たゆまぬ経費縮減努力を継続いたします。

第8章 経営戦略の事後検証等

経営戦略の見直しの方針

経営戦略に基づく事業の進捗管理（モニタリング）を毎年度行うとともに、“PDCAサイクル”を働かせることで軌道修正を図り、概ね5年ごとに経営戦略の見直し（ローリング）を行います。あわせて村HP上で住民への情報公開も行っています。

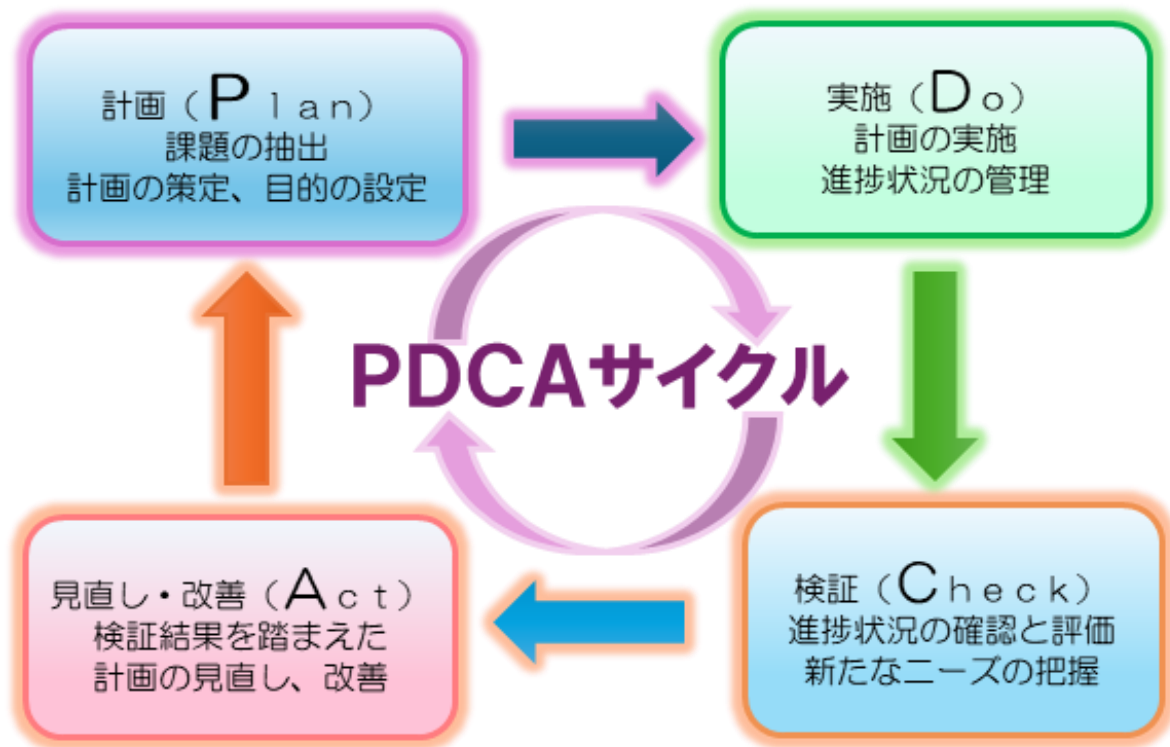


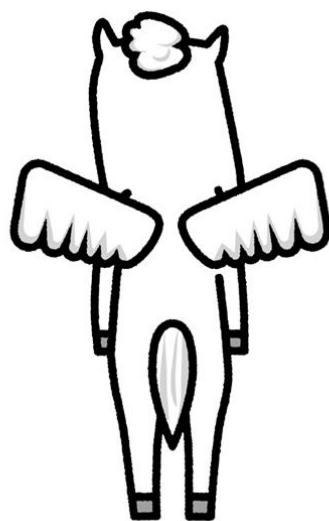
図 PDCAサイクル

経営戦略見直し予定時期

次回の経営戦略見直し予定時期は令和12年3月です。

次回の経営戦略見直しの時期

令和12年3月（予定）



概要版

白馬村水道事業経営戦略

白 馬 村